

「恐れることはない」 (マタイ 28・10)

新型コロナウイルスの拡大は私たちだけではなく、日本全国、全世界、地球規模で起こっています。目に見えない、小さなウイルスが人間の健康を脅かし、多くの命を奪っています。



さらに、最近日本では、すごい勢いで感染拡大が全国的に広がっています。「元通りの生活に戻ろう」と考えることはできません。ウイルスの感染拡大を予防していくために、新しい生活様式が発表されました。その中で、私たちに求められている社会的な習慣が注目されています。とくに「三密」と呼ばれる 密集、密接、密閉を避けることが重要とされています。

この状況の中にある可能性と気づきを通して新しい「**宣教司牧**」の様式について考え、実践するように呼ばれているのです。どのように

その中で信仰を育み、福音を証しし、宣べ伝えるべきでしょうか。祈りの中でこれについて考えながらイエスのことばを思い起こします「恐れることはない」。この言葉に力づけられてこれから先の道を歩んで行きましょう。



作成：福岡教区養成教化・生活聖化委員会

「わたしを遣わしてください」

10月 宣教の月

第1日曜日 2020年10月4日

メッセージ：ヨゼフ・アベイヤ司教



わたしは主の御声を聞いた。
「誰を遣わすべきか。誰が我々に代わって行くだらうか。」
わたしは言った。「わたしがここにおります。
わたしを遣わしてください。」

(イザヤ 6.7-8)

コロナ禍でも福音宣教の使命

毎年のように、教皇フランシスコは、「世界宣教の日」(10月の第3日曜日)のためにメッセージを発表されます。教皇様はイザヤの預言書のことばを通して、皆が与えられている福音宣教の使命に対する自覚を深めるように招いてくださいます。神はすべての人々に御ことばを届けたいという望みと、すべての人々を救いたいという愛を知らせるために「誰を遣わすべきか。誰が我々に代わって行くだらうか。」と今も私たちに語りかけておられます。「わたしを遣わしてください」と答えることができたなら…。

私たちはもしかすると、「できる人」に任せると思っていないでしょうか。また、時には、伝えなければならない「内容」のことを心配していませんか。しかし、福音宣教の基本は「福音的な心で人々と関わる」ことです。福音宣教は、あなたにもできます。「わたしがここにおります。わたしを遣わしてください」と、謙虚に、しかし心から、神様の呼びかけに応えたいものです。

試練の時を選びの時に

「主はこの試練の時を、選びの時とするようわたしたちに求めておられます。あなたの裁きの時ではなく、わたしたちの決断の時です。何が重要で、何が過ぎ去るものかをえり分ける時、必要なものとそうでないものを見分ける時です。主なるあなたに対しての、他者に対しての、生きる道を定め直す時です。わたしたちは、模範となる大勢の旅の仲間目に向けてすることができます。不安の中にあっても、自らのいのちを差し出すことでこたえた人々です。」



「わたしたちを必要とする人々に目に向けてようと、わたしたちの中で生きている恵みを深め、感謝をもって受け入れ、生かすようにと。暗くなってゆく灯心を消さないようにしましょう（イザヤ 42・3 参照）。それは病におかされることのない明かりです。希望の灯を再びともしましょう。」



教皇フランシスコ、2020年3月27日
新型コロナウイルスの感染拡大にあたっての
メッセージ（ローマの無人の
聖ペトロ広場から全世界へ）。



主日の福音から黙想のヒント

ぶどう園のたとえ・(マタイ 21・33-43)

ぶどう園は世界、農夫は私たち、ぶどう園での働きは福音宣教。

新型コロナウイルス感染症に苦しむ世界のための祈り

いつくしみ深い神よ、
新型コロナウイルスの感染拡大によって、
今、大きな困難の中にある世界を顧みてください。
病に苦しむ人に必要な医療が施され、
感染の終息に向けて取り組むすべての人、
医療従事者、病者に寄り添う人の健康が守られますように。
亡くなった人が永遠のみ国に迎え入れられ、
尽きることのない安らぎに満たされますように。
不安と混乱に直面しているすべての人に、
支援の手が差し伸べられますように。
希望の源である神よ、
わたしたちが感染拡大を防ぐための犠牲を惜しまず、
世界のすべての人と助け合って、
この危機を乗り越えることができるようお導きください。
わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。



希望と慰めのよりどころである聖マリア、
苦難のうちにあるわたしたちのためにお祈りください。

(2020年4月3日 日本カトリック司教協議会認可)